様式第５号

令和５年度　学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	23	学 校 名	静岡県立掛川特別支援学校	記 載 者	滝口　晃央

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評　価	意見
ア	（ア）安全・安心 児童生徒が安全に安心して生活することができ、活動しやすい教育環境を整備する。	・管理責任者による安全点検の実施と危険個所の整備 100% ・「整理整頓・清掃が常に行き届いている学校」と答える教職員 100%。 ・保健、医療的ケア、給食、体育等の重大事故発生０件。 ・「ヒヤリハット等の情報を環境整備や再発防止に活用した」と答える教職員 100%	A	A	・安全・安心の学校生活が保障されていて素晴らしい。 ・学校がとても整理されていると思う。たかが整理整頓だが、子どもたちの生活の安全も安心も、環境が整っていることが大切だと思う。 ・リデュースの観点から、ゴミの廃棄量を可視化してみてはどうか。削減目標を生徒と共有することで、学びにもつなげることができる。 ・事故の発生が０件だったという事で安心した。大きな学校で安全管理も大変だと思うが、教職員の皆さんの努力の成果だと思う。
	（イ）危機管理体制の整備と改善 **事故や災害等に対する適切・迅速な対応を考え危機管理意識の向上を図る。（自分の命は自分で守る教育）**	・地域との合同訓練を通して福祉避難所運営や避難体制の確立 100% ・マニュアルを教職員が理解し、「児童生徒が有事の際の動きが分かり行動できた」と答える教職員 100% ・不祥事根絶。情報機器管理・紛失０件。個人情報紛失０件。交通加害事故０件。不適正会計処理０件。	A	A	・福祉避難所訓練の全職員の経験についてとても大切だと感じた。経験だけでなく、一人一人の教職員が災害の状況や役割について具体的なイメージが持てるようになるとよいと思う。 ・地域との連携がち密に行われている。 ・パニックになりがちな災害時の対応への取組を大切にしたい。 ・災害時に備え、市との合同訓練を行ったことはとてもよいことだと思う。 ・危機管理マニュアルの理解も高く、不祥事もなか

					ったことからは教職員の意識の高さを感じた。 ・能登半島地震で、防災意識がより高まっている中、児童生徒が在校中に地震がおこる可能性は高い。原発事故の想定も含めて学校での避難訓練は大事だと感じる。広域の学校であることで引き渡し訓練など大変だと思うが家庭の防災意識も大事なので引き続き頑張ってほしい。
	（ウ）人権教育、道徳教育の充実 教職員、児童生徒の人権意識を向上し、他者も自分も大切にする心を育む。	・「教職員一人一人が人権に配慮した丁寧な態度や言葉遣いができた」と答える教職員の評価100％ ・「アンケート後、丁寧な対応ができたと答える教職員 100％ ・「児童生徒が、あいさつやありがとうが自分から言えた」と答える教職員 100％	A	A	・あいさつや「ありがとう」の言葉を大切にしたい。 ・生徒児童の呼称など「君、さん」で徹底されていて素晴らしい。 ・あいさつや言葉遣いが、一番人権感覚が表現される時である。咄嗟の時に、その人権感覚が発揮できるかが、問題となるので、次の目指す目標としては、この人権感覚を目標にするとよい。 ・とても大切なことであるので、企業の ISO のような外部評価の視点を入れてみてはどうか。 ・学校を訪問すると、教職員の皆さん、児童生徒さん達から気持ちの良い挨拶をいただく。
	（エ）業務改善と明るい職場づくり **心にゆとりがあり、教育公務員としての自覚と仲間を大切にする姿勢をもった教職員**	・「働きがいとワークライフバランスの視点で業務改善できた」と答える教職員 90％ ・「自分の役割を自覚し、仲間と協働することができた」と答える教職員 100％	A	A	・仲間と協働できる関係を大切にしたい。 ・残業が常態化していると耳にすることがあるが、その点でも安心できる体制となっている。 ・教員の業務改善はとても難しいと感じている。ライフステージも学校で期待される役割、家庭人としの役割と…人によって人生の立ち位置も違い、「エフォート」という考え方も導入して

					もよいかと思う。 ・結果だけではなく、持続的に学校経営に関わるトップ自らが率先、推進して いくことが重要だと感じる。 ・教職員のエンゲージメントが向上するよう引き続き業務改善に取り組んでほしい。 ・管理職が、頑張って働き方改革をしている成果が表れている。教職員の皆さんが健やかに働けてこその学校であるので、気軽に話し合える職場づくりを今後も継続してほしい。
イ	（ア） 保護者と教職員が連携・協力して児童生徒の成長を支え、夢の実現を目指す。 （イ） 12 年間を見通したつながりある年間指導計画の作成と授業づくりを実施する。 **（ウ）専門性** **学習指導要領を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を通して、実践力と専門性のレベルアップを図る。**	・「すまいるファイルを保護者や関係機関と共有し、面談や進路に活かせた」と答える教員 100% ・「日々の児童生徒の評価を記録し、個別の指導計画に反映できた」と答える教職員 100% ・「助言者や授業アドバイザー等からの助言を受け授業改善できた」と答える教員 100% ・「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善できた」と答える教職員 100% ・「授業でＩＣＴ機器を活用した」と答える教職員 100% ・「12 年間の系統性、や学習指導要領等の内容を見直した年間指導計画が作成できたと答えた」教職員 100% ・『掛特版キャリアプランニング・マトリックス』や『保健教育に関する 12 年間の押さえ』を活用し、授業実践した」という学部 100% ・「児童生徒が読書に親しんだり芸術を楽しんだりすることが	A	A	・すまいるファイルの活用引継ぎができていて、指導に生かされている。 ・教員の授業実践に関する専門性の向上は必須である。その中で、とても努力されていると感じる。 ・この専門性の向上をどのように評価するのか、教職員一人一人が自覚することが大切だと思う。 ・素晴らしい取り組みだと思う。夢の実現については、学生時代に実現することができなくても、長いスパンで卒業した後でも実現に向かって一歩ずつ進むことができればよいと思う。会社でも、ハンディキャップを持ちながら働く従業員の夢の実現をいかにサポートしていくことができるのかを検討したいと思う。

様式第５号

		できた」と答える教職員 100％			
ウ	**（ア）センター的機能** **社会に開かれた教育課程の実現を目指した地域・学校・家庭の協働強化を図る。** **（イ）ふれあい活動の実践** **共生共育の実現に向けたコミュニティースクールの実施**	・ニーズに応じたケース会議や学習会を設定したり、情報共有したりして、「必要に応じて保護者や関係機関と連携して取り組んだ」と答える教職員 90％ ・校内の専門家（看護師、ＳＣ）や校外の専門家（ＰＴ、０Ｔ、学校医、医ケア指導医相談員等）の活用が「有効であった」と答える教員の評価 90％ ・「学校公開やＨＰ等で学校の様子が理解でき」と答える保護者 100％ ・「ふれあい活動を実施し、地域資源（人・もの・こと）を利用できた」と答える教職員 100％ ・地域の方々に向けた作品展や日頃の学習活動を公開して、「児童生徒の理解啓発につながった」と答える教職員 100％ ・実施後アンケートで「有効であった」と答える本校、相手校の評価 100％	A	A	・学校のセンター的役割が地域と連携して果たされている。 ・障害の重度重複化には、他機関との連携と他専門家との協働も大切になる。医療的ケアの取組も優秀であることからも、専門家の活用が有効だと想像できる。 ・「ふれあい活動」等、将来的には、生涯学習にもつながっていく、地域交流の積み重ねになればと考える。 ・素晴らしい取り組みだと思う。地域、家庭、学校が連携することでどんな効果があったのかを、定量的に示すことができるとなお良いと思う。 ・学校生活、行事やふれあい活動など、もっと積極的に発信して、これまで以上に保護者や地域から理解され、学校をとりまくコミュニティーが大きくなることを期待する。 ・ふれあい活動が、今後も無理なく持続していくために、課題等が生じた際は、学校運営協議会で建設的な話し合いができるようにしてきたい。